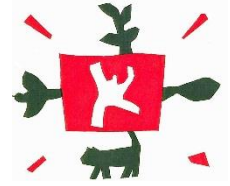


共同通信



2017年6月28日 250号(459号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22

TEL 0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email koudou@gamma.ocn.ne.jp

<http://koudou.jp/> 振替 01170-3-4901

To tell the story 148

「嵐の父です」

始めに、共同幼稚園と僕との関係について話しておこうと思います。僕には愛する妻がいるのですが、妻の妹夫婦の子どもが共同幼稚園に通っていたのがきっかけで共同幼稚園の事を知り、息子(嵐)を通わせようと決めました。

共同幼稚園では、お母さんたちは、園の行事を支えるなど忙しいという話は聞いていました。けれど、お父さんたちには仕事ないのかな？と考えていました。そんな中で、卒園したお父さんたちの集まり(のびーる)がある事を教えてもらい『のびーる』に入らせてもらう事になりました。『のびーる』の方々とお話しを

させてもらい教えてもらったのは、『のびーる』を立ち上げてずっとやって来られている方は、自分の子どもが卒園して10年になると聞いて驚きました。そして、在園のお父さんが参加したのが久々という事を聞いて更に驚きました。『のびーる』は、ほしまつりや共同まつりでコロッケや様々な食べ物を出してくれていた方々なのですが、僕の中では、そこに在園のお父さんがおられないというのがショックでもありました。けれど、在園が参加できないのにも理由はあり、まつりの度にお母さんたちには担当があるので、その間に子どもを見てもらう人が必要にな

時代にふり回されるのではない

あの時 心を躍らせて生きた

後悔に 身をふるわせたこともある

笑い 泣き 歯ぎしりをした

今日 こんな決意をしたという

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい、

自分の人生を語ってほしい

自分の人生を語ってほしい

り、その役目がお父さんになってしまうと、参加したくても出来ない人がいるというのも理解できました。僕の場合、息子の上に10才と、12才離れた娘がいるので、その娘や親戚のお陰でまつりに参加出来たのは事実だと思います。けれど、やはり在園の方々が少しでも参加できた方がまつりは楽しくできると思っていたので、少しでも参加してもらえるように声掛けをしていきました。お父さんたちに声を掛けて飲み会を開いたり、少しでも参加できる時間を聞いたりして、それを基にしてシフトを作り、人が少なくなりそうな時間帯に『のびーる』の方々にも手伝ってもらえるように声掛けをさせてもらいました。そして、少しずつ参加してくれる人が増えて来たのを覚えています。

では、なぜそこまでして在園のお父さんに参加してもらいたかったのか。というと、初めから変わらない僕の想いがあるのですが、子どもは大きくなるにつれて少しずつ親から離れていきます。思春期があり、反抗期があり、そうなった時に、親が子どもに近付きたくても近付きなくなる時は必ずくると思います。その中で、わずかな時間、この幼稚園での3年間だけでも、しっかりと子どもに向き合う事ができたなら、子どもにとっても親にとってもこの時間は人生の中で大切な宝物になると考えていたからです。子どもは親の働いている姿を見る機会はなかなか無いと思います。そんな環境で「お父さんって何しているの？」って聞かれ

ても、うまく説明できない子がほとんどだと思います。その中で、親が自分の通っている幼稚園の行事に参加して、まつりで汗水流しながら食べ物作ったり売ったりしている姿を見て、「あれ僕（私）のお父さんなの。」という事を友だちに話す事ができたら、それってとても自慢できることじゃないかな。と、ずっと思っています。だからこそ、まつりには在園の方に参加してもらおう事にこだわっていました。

同じ事を言ってしまうのですが、親が子どもに寄り添いたくても寄り添える時間は短いのもかもしれないと考えると、この幼稚園の3年間は僕にとって、とても意味のある時間でした。卒園してからでも言える事は、この幼稚園に通わせてもらい、そこで知り合えたお父さんたちに対しても、全てに『感謝』の言葉だけです。

今は息子も卒園してしまったので表立っては前に出て行きませんが、行ける時にはサポートする気持ちで今後も参加できればと思います。表に立ってしてもらうのは在園のお父さんたち。まつりはみんなが主役。子どもが楽しめればいいですけど、お母さんお父さんもそこに参加して子ども以上に楽しんだらいいのかな。と思っています。

次に僕の仕事に関してお話しさせてもらいます。息子が公同に通っていた時は高齢者のデイサービスで生活相談員として働いていましたが、今は尼崎にある放課後等デイサービス『あおぞら』の管理

者をしています。では、なぜ放課後等デイサービスを立ち上げてやっていこうとしたかをお話させてもらいます。

上記にも書かせてもらったように、高齢者のデイサービス『アクティーEB ケア武庫之荘』で10年程生活相談員という立場で働かせてもらっていました。その社長に、放課後等デイサービスを立ち上げてみないか。と言われたのがきっかけになります。そう言われてから色々考えました。介護でずっとやっていた人間がいきなり違う環境でやる事ができるのかどうかという不安はありました。考えた末にやってみる決断をしました。その理由は、高齢者のデイサービスでは様々なスタッフが働いては辞めていくというのを昔は繰り返していました。その中に若いスタッフもいました。注意散漫になる特性を持っている人や相手との距離感が掴めない人とか。

注意散漫な人は、仕事で大切な話しをしているのに周りで物音が少しなったら物音がする方が気になってしまい、気になるだけではなく、人が話している最中なのにそちらに行ってしまうおとす人。また、高齢者の方々と話をすると相手との距離感がつかめず相手を怒らせてしまう人や……。ただ、怒らせるだけなら後で周りがフォローを入れたらいいだけなのですが、仕事の性質上、安全に介助をしなくてははいけません。介助をしている時に注意散漫になり怪我をさせてしまう危険性があるので任せる事ができない時もありました。何ヶ月かすると仕事は

続かず辞めてしまう事になりました。

辞めたスタッフは違う仕事に興味を持ち働き始めるのですが、そこでも上手くいかず悩んでいたようです。そして、仕事が続かなくて悩んでいる事を親に伝えて親から言われた言葉は、「あなたは普通の子とは少し違うのだから……。」と言われたそうなのです。今までそんな事を言われた事がなかったのに、いきなりそんな事を言われると気持ちの整理がつかなくなります。

親が前から気付いていたなら、なぜそれを早くに伝えてあげなかったのだろうか。少しでも自分の特性を理解できていたならもっと違う職種を自分で考え、周りに相談しながら決めてやっていくのではないか。と思いました。

スタッフから話を聞いた時の気持ちが甦り、そんな不幸を繰り返したらいけない！という想いが放課後等デイサービスをやってみよう。というきっかけになりました。障がいのどうこうではなく、自分自身の特性に気付き、自分には何が向いているのだろうか。そこに気付けるようになってもらいたいというのが想いです。

基本的には子どもは親より長生きします。大人になった時には自分で最低限の事ができ、仕事に関しても自分は何ができて何が向いているのか。というのを考え選択できるようになってもらいたいからです。

障がいが治る事は無いですが、自分の持っている特性を理解して、こんな事だ

ったらできるのではないか。と考える事ができ、苦手な事でも工夫すれば自分はやれるんだ！という対処法を見つける事ができれば社会は住みやすくなると思います。

順子先生より、立ち上げることになった放課後デイの取り組みの今の様子とかも話してもらえればと言って下さったのですが、さらに長くなってしまいそうなので今回はこの辺にさせていただきます。みなさまの反響があればその時にお話できればと思います。

(東田 隆志)



～どろんこと太陽～2017

西宮公同幼稚園の子どもたち

あつという間に春が過ぎ去り、季節は夏に。6月はアジサイがきれいに色づきほかにも素敵な花の色が目に入ります。公同幼稚園の子どもたちはこの時期ならではの自然との出会いや楽しい発見に心を弾ませています。

そんな公同幼稚園と出会っての2年目の日々が過ぎていっています。同じく公同1年目のぽっぽさんたちと二人三脚で歩んできた1年間。たくさんの出会いを共にする中で、驚きや発見を一緒に楽しみ、大笑いしてきた毎日でした。真剣に向き合い、時には本気で喧嘩をしたことも(笑)。この1年間の中で私が貰ったものはとてつもなく多く、数えきれないほどの宝物の数に日々驚くばかりです。

新しい年度が始まって早3カ月。ああ、やっぱり公同っていいなと思えることに溢れている日々。何よりも、子どもたちの毎日が「保育」という言葉では語り切れない、子どもたちの「生活」そのものであることを大事にしていることに魅力を感じています。

先日、年長組の子がなわとびで1000回を達成し、見事赤いなわとびをもらえることになりました。昨年度、さんぼらったさんだった頃から、コツコツと毎日のように跳び続けてきた光景を目にしてきました。最初の頃はリズムも回し方もバラバラだったのが、だんだんと上手になっていき、年長組になった頃にはすご

くきれいに跳べるように。誰に跳ぶように言われたわけでもなく、ただ“跳びたい”というその子の気持ちの強さだったのだと思います。そしてその努力の姿を自分のことのように応援し、喜ぶ子どもたち。その真剣に見守るまなざしや、応援隊として、その子を見つめながら周りで跳ぶ子どもたちの姿に感動させられます。そんな子どもたちの姿を見て実習生が一言。「跳んだ子ももちろんすごいけど、当たり前のように全クラスで見守るのですね」と。

クラスや学年の垣根を越えてその喜びを分かち合っているその光景に驚いたとのことでした。当たり前ではないその光景が、共同の子どもたちにとっては、当たりの「生活」であることの嬉しさを改めて実感しました。そして喜びを分かち合う中で、自分の力に変えていく姿もたくさん。いつの間にかなわとび台になってしまったという大きなテーブル、その前には、年長さんの列がずらっと。さんぼらったの部屋の前では、なわとびを手に、跳んでみようとする子が増えていて。ぼっぼさんからは「なわとびやりたい！」という声から大縄跳びが始まったり。一人の努力がたくさんの子どもの力に変わっていく。

そんな素敵な光景を見るのが大好きです。これからもいろんな物語が生まれていくのだろうと思える共同の園庭。その一瞬一瞬に寄り添えることを嬉しく思います。

(近藤 香澄)



あんなこと こんなこと

2017年5月10日(水)

後川田植え(年長さん)

「お米は、こうやってできるんだあ〜」と、後川で初めての田植えを体験し、見守った年長さん。



2017年5月19日(金)

トライやるウィーク

深津中学校、瓦木中学校、甲陵中学校

西宮市内の公立の中学2年生の子どもたちが、5月～6月に渡り、それぞれ1週間、福祉体験や職場体験、地域文化体験などさまざまな体験活動に取り組むために、公同幼稚園にもきました。



2017年6月4日(日)

わがまちクリーン大作戦

西宮市では毎年6月、12月に「わがまちクリーン大作戦」を実施しています。4日(日)を中心に市内各所で一斉清掃したそうです。わたしたちも子どもたちと参加し、みんなでゴミ拾いをしました。

この日西宮市全体で、約75トンものゴミが集められたそうです。日々より、気を付けて意識していれば、そんなにもならないのになあ…。



2017年6月4日(日)

津門川川掃除

今月の掃除は、24人の参加で行われました。浅瀬では、子どもたちも川の中に入り、ごみを集めてくれました。



2017年6月8日(木)

ミルトス(銀梅花)満開!

津門川沿いや、にしきた駅前公園で、ミルトスの白い可憐な花が満開でした。

葉は揉むとユーカリに似た強い香りがあり、「マートル」という名でハーブとしても知られています。

古代エジプト王朝では「繁栄」の象徴とされ、ヨーロッパでは愛の女神に捧げる花としてブーケにも使われたそうです。

2017年6月17日(土)~21日(日)

矢田貝充彦・絵画・イラスト・原画展

アートガレーヂ

同時期に、第1会場としてアクタ西宮東館でも、開催されました。



～あるがままに～

「順子先生の出会い日記」

1年に5回ほど、「絵本はともだち」ということで、保護者対象の絵本の会が開かれていて、それを担当して20年余り。

出席の用紙だったり、感想の小文だったり、わたし作のレジュメだったり、すべてそろっていますとはならないのですが、懐かしむには十分すぎるほどのものがファイルされて残っています。片づけをするはずが、そういうものを見るとつついいろいろ開いてみたくなり、物事が進まないということがしょっちゅう。

話をさせていただくのに、そういう機会があることが自身のまとめになり、財産になっていくということで、そうそうこんなことやったわと思出すものだから、またまた片づけは遠くに、なのです。

毎回B5の半分に参加者が感想を書いてくださっているのを読むのが、何より楽しみ。出席表は、へーあの子がこの時ぼぼだったんだとこれまためっちゃ懐かしい。

その出席表の名前からあれこれ思い出して考えていくものだから、ほんとに大変。しかし、ちりも積もればというものの、年数も重ねればではあります。

さてさて絵本なるものに出会ったのは1969年、大阪の保育園に勤務してのこと。福音館書店のかぐくのとも月刊誌が発行になった年でした。

そこで福音館の月刊誌の購入が始まりました。西宮北口の第一踏切を越えて左に小さな書店があり、毎月取りに行くのが楽しみに。そのうち勤務した保育所に神戸こどものとも社が回ってくるようになり、いつか文庫を開くのだと毎月絵本や児童書に給料のかなりを大量投入。今はそれらは「絵本の家」に収まっています。

そんなふうに絵本を一か所にとったのにはわけがあり。2010年の暮れ近くに誕生した孫が正月に連れられてきて、座布団に寝かされているのだけれどどこを見回しても周りは高い本の棚。何かあったらこの子埋もれて死んでしまう、そこで大移動となったのですが、いろんな家に住んできたけれど、そのあと壁が見える、廊下は廊下にとったのはほんとに珍しいこと。よかったことと真逆はその絵本たち、往復2時間はかかるころにいるのでこれが大変。時々訪れては整理などしたり、今子どもたちに！を探して持ち出す。しかし持ち出すと今度は戻す作業も。ということで「絵本」で相変わらずの日々です。そんな絵本たちからの贈り物の一つに「福音館書店社外講師」の仕事があります。1997年ごろから早や20年、月刊誌の一つの「母の友」にも単発の執筆や連載がありました。

さて、5月の終わりごろに「平和学」で一こまの時間をこの近くの女子大でいただきました。できるかな？いやできますとも！絵本があるからね。

そこで活用した絵本の題名は以下のとおりです。

「へいわってすてきだね」(著:安里有生、
絵:長谷川義史、ブロンズ新社)

「さがしています」(著:アーサー・ビナード、
写真:岡倉禎志、童心)

「ドームがたり」(著:アーサー・ビナード、
絵:スズキコージ、玉川大学出版部)

「知らなかったぼくらの戦争」(原著:アーサー・ビナード、
小学館)

「どうぶつ会議」(著:エーリヒ・ケストナー、
絵:ワルター・トリヤー、訳:光吉夏弥、
岩波書店)

「戦争をめぐりぬけたおさるのジョージ」
(著:ルイーズ ボーデン、絵:アラン・
ドラモンド、原著:Louise Borden、
岩波書店)

「雨ニモマケズ **Rain Won't**」(著:宮沢賢治、
編:こどもくらぶ、絵:山村浩二、
今人舎)

ところで子どもたちと生活していることがこういう時にしっかりあらわれます。3月の大相撲大阪の場所に行った子どもが「きんぼし」というあられのおみやげを。どう使うかなと考えているところで目にとまったのが1冊の絵本。「ぞうきばやしのすもうたいかい」、しかもその内容と来たらまさしく「きんぼし」そのもの。大きいものと小さいものが闘うと勝つのは？いやいや闘いには知恵もです。思いがけない展開に子どもたちが湧きます。

平和って何だろう、大学では導入にこの絵本を読ませていただき、子どもたちの様子もお話しました。強いものが強く生きる世の中であってはいけないのです。

絵本ですごいね、この導入で学生さんたちの心を一瞬にして捉えられたのでは？自画自賛相変わらずでしょうか。

「こうぞう版行動報告書」

「こうぞう版行動報告書」

旅行というものは、非日常を楽しむものだと思うので、日常生活ではできないことをしてやろうと思っていました。今回はヘルパーさんと2人で有馬温泉に行く計画を立てました。宿泊先に選んだのはかんぼの宿有馬でした。インターネットの動画投稿サイト YouTube にアップされていた、車椅子ウォーカーで紹介されていたのを見て決めました。有馬にもあるということは20年ぐらい前知り合いの牧師(当時有馬から近い教会)といっしょに行った覚えがあります。そして再度ネットで調べてみると、バリアフリー客室があったので予約してもらい行くことができました。

ある意味この旅行は大成功で、1年後を目途に宮城か福島か岩手の東日本大震災の被災地に行く予定です。

(下平 浩三)

教会の火曜日 10時から12時 於:西宮公会教会集会室

第1火曜日	わいわいお茶会
第2火曜日	ゆっくりと聖書を読んでみませんか
第3火曜日	読書会
第4火曜日	社会のこと、世界のこと

～♪ぼくのみる空ときみのみる空はつながっているから～

「アメリカでも奮闘しています」

6月第二週の金曜日で現地の小学校が修了し、夏休みに入りました。2ヶ月間に及ぶ長い夏休みが始まるはずなのですが、私と子どもたちにとっては、ものすごく忙しい日々の始まりです。

現地の学校が終わったと同時に、3週目から、2週間の日本語補習校の夏季集中学習が始まるのです。これは毎年恒例ですが、4月から息子も日本語補習校の1年生になったので、3年生の娘と1年生の息子の二人分の宿題が出るという点で、私にとっては例年とは大きく違っています。いつもは土曜日だけの補習校。それでも宿題が1週間分出るので、現地校の宿題と補習校の宿題をこなすので手一杯です。特に日本語での宿題は、辞書を引いたり、音読したり、ワークを解いたり、なかなか一人では出来ないものが多く、大人の手伝いが必要となります。学校から帰宅し、宿題を一緒にして、そしてあつという間に夕食の時間が来て夕食を作る・・・というこのスケジュールでもヘトヘトでしたが、夏季集中学習は毎日1週間分の宿題が出されるので、大変さが普通ではありません。もちろん子どもたちはとても大変で、勉強、宿題、勉強、宿題、が2週間毎日続く夏休みなんて本当に大変だと思います。今朝も「行きたくない」と布団の中でベソを書いています。ですが、日本語の学びを日本での

スピードと同じように続けようと思うと、やはりこの夏の間随分進めておかないといけないのでしょう。文句は言っていないかもしれません。日本の学校で使っている教科書と同じものを使い、同じスピードで学ぶことができるというだけで、日本にいつ帰国するか分からない駐在員の子どものにとってはありがたいことなのだと思います。そして同時に日本語をアメリカで学び続けるということは、それほど大変なことなのだと思います。

ですが、その宿題の量に加えて、いつもは土曜日で、すいていたはずの学校までの道が、平日毎日となることで、朝の通勤ラッシュ、そして帰宅時間の通勤ラッシュに巻き込まれて大変なことになってしまうのです。高速道路を使って、いつもは車で片道20分で到着できる場所なのですが、平日はどうしても片道1時間かかってしまいます。サンノゼは車の渋滞の酷さでも有名で、朝は10時を過ぎるまで混雑が続き、午後は3時を過ぎるとすでに渋滞が始まってしまい、8時を過ぎるまで混雑が続きます。

こうなるととにかく体力勝負になってくるので、この2週間は親子共々協力し、とにかく日本語を学ぶために頑張ろう！！乗り切ろう！！宿題やっしまおう！！泣くな！！という感じでお互いに気合を入れ、私が少々怒鳴り散らしてもイライラしていても、子どもたちもその大変さを理解してくれて黙って受け止め

ています。

こんな小さなことで気合が必要で、おそらく2週間が終わる頃には私自身がパニック状態と、もぬけの殻状態の精神状態になっていると思われる本当に情けない親ですが、子どもたちはいつも笑顔を絶やさず、優しさを絶やさず、泣いたり笑ったりしながらもこんな母親を抱きしめてくれていることに驚かされる毎日です。菅澤先生がよくおっしゃられていた「抱いているようで抱かれている」という言葉をいつも思い出しながら子育てに奮闘しています。

(山本 知恵)



名護め七曲(57)

「復帰」後の沖縄県政 10

先月号で途中何行か抜けてたみたいですが、あまり大事な部分ではないのでどうか気にしないでください。失礼いたしました。

さて沖縄国際大学に米軍のヘリコプターが墜落したのが2004年8月13日。普天間基地に所属するヘリコプターでした。この時日本の消防や警察は事故処理や調査にあたる事が出来ませんでした。「日米地位協定」ですね。米軍による公務中の事故事件については全てこの「日米地位協定」が厚い壁となって住民の前にドーンと立ちはだかります。被害者に対する法的保護や憲法さえも無力化させてしまう強烈な協定です。いくらなんでも酷すぎるのではないの？ということこれまで何度か見直しが検討されてきましたものの、抜本的改定もないまま現在に至っておるようであります▼日米安保は必要かどうかという議論はさて置き、少なくとも在日米軍は沖縄にとにかく集中し過ぎ。「本土」でどの程度まで報道されているかちょっと分かりませんが、在沖米軍機の“事故”っってもう本当にしょっちゅうです。墜ちた場所が誰もいない海だったから良かったとか、基地内だったのでOKとか、そういう問題ではありません。そんな飛行機やらヘリコプターが自分ん家や学校の上をブンブン飛び回っておるわけですから、そりゃもう

毎日不安だわけです。しかもそれは“もしかすると”じゃなくて現実に墜ちとるわけですものね▼特に住宅密集地にある普天間基地の危険性は日本政府も認めるどころです。沖縄国際大学のヘリ墜落事故以前より普天間基地の閉鎖・移設については既に検討が始まっており、海外や日本「本土」を含む様々な候補地が上げられる中、最終的に 1997 年に名護市辺野古のキャンプ・シュワブ辺りということに着地します。降って湧いた話に地元名護市も大混乱。市民も市長も議会も新基地受け入れか否かをめぐって大激論となります▼しかし実際に基地を作るといのはそう簡単なことではありません。地元住民の理解や工法に関する技術、米軍が求める仕様・性能、また自然環境の健全性をどのように担保するかなど、すべての条件や問題を一つ一つ丁寧に且つ慎重にクリアしていかなければなりません。そう考えると辺野古の海を埋め立てて新たに基地を作るなど本来なら考えられないことです。ところがそうこうしているうちについて「丁寧に」やら「慎重に」やら言うたられん事態が起こるのです。それが 2004 年の沖縄国際大学米軍機墜落事件▼日本政府にとっては辺野古にどうしても新基地を作るいい理由になったかもしれませんね。そこで出てきたのがキャンプ・シュワブ沿岸にV字滑走路を建設するという案。日米両政府はこの計画を 2006 年 5 月に合意します。現在建設が強行されているのはこいつですね。そのやり方たるや警察を使った暴力

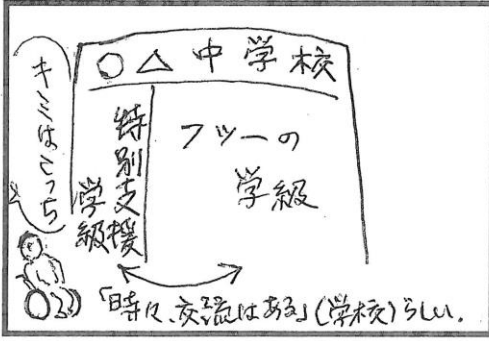
的弾圧・威圧、金のばら撒き・チラつかせ、住民の分断。これに一部メディアが乗かって喜び勇んでデマを拡散します。このまま国家権力を野放しにしておきますとそのうち国民の手に負えなくなりますよね。大丈夫か？▼さて稲嶺政権は 2006 年 12 月で任期満了を迎えここで一旦選挙となり、次に仲井眞弘多さんが沖縄県知事を引継ぎます。仲井眞知事は当初キャンプ・シュワブ沿岸のV字滑走路の建設は沖縄を抜きに勝手に日米が決めたことだから反対だと表明していました。それに普天間基地も 3 年を目処に閉鎖させると公言しておりましたから、そりゃあ有権者も大いに期待しますわな。ところがですよ、これがあのような思わぬ結末を迎えることになるとは...この時はまだ誰も知りませんでした。今回はその仲井眞知事が巻き起こした仰天の結末について書きましようね。

先日 6 月 12 日、元沖縄県知事の大田昌秀さんが亡くなりました。知事在任中に限らず平和の創造に尽くされてきた大田先生の姿を、沖縄県民は忘れないと思います。

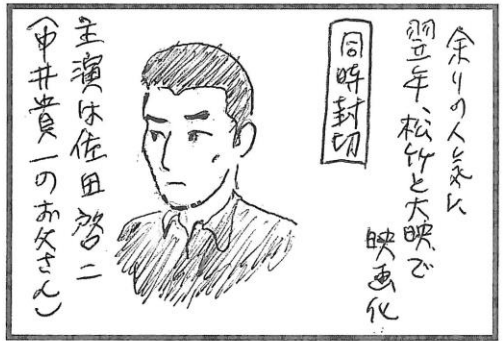
(羽柴 禎)



困ること



流行語 (1)



小林信彦著『現代く死語十』岩波新書より

佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ2017

ファイガロの結婚

前夜祭

いつも心に被災地を

入場無料



高松公園 (芸術文化センター前)

合券 雨天／芸術文化センター 阪急中ホール
の場 午後5:00開演 午後4:30開場
天覧 午後3:00より整理券を配布
雨要 配布場所 芸術文化センターエントランス前

◆「ファイガロの結婚」前夜祭開幕ファンファーレ！
毎年恒例となりました！中学生による吹奏楽ファンファーレ！
4校合同バンドによる、元気あふれる前夜祭の開幕です！

◆紙芝居 de 「ファイガロの結婚」
かくも美しいモーツァルトの楽曲に乗せて
オペラ「ファイガロの結婚」の見どころをダイジェスト！

◆ラブラブさんいらっしゃい！
「ファイガロの結婚」にちなんで
愚のあつたヘアなどはハーマニーでリネストゥ

◆さきどり！「ファイガロの結婚」♪
オペラ「ファイガロの結婚」より、聴きどころをピックアップ！
さくさく耳にしたことのあるメロディーもあるはず！

◆やっぱり最後は「にじきたすつと節」！
オペラの前夜祭はやむを得ず「ファイナル」
みんなを歌って！踊って！！笑いましょ！！

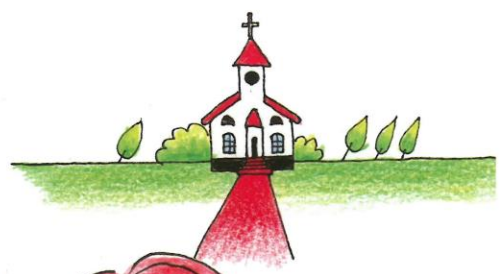
「にじきたオペラウィーク」

- 6月25日(日)午後12:30～音楽イベントⅡ阪急西宮ガーデンズ(トワエルカガイチ)
- 7月1日(土)午後2:00～音楽イベントⅡアクタ西宮(東階F中央広場)
- 7月8日(土)午前10:00～「ファイガロの結婚」モーツァルトを少し勉強しましょうⅡ西宮公会教会

7月13日(木)

午後4:00 出店オープン
午後5:00 えほん読みかきかせイベント(主交)Fエントランス
ステージイベント開演

お問合せ 西北活性化協議会 TEL:079-907-5847 10:00～18:00 月金曜休み http://www.nkkc.org
主催 西北活性化協議会 実行委 西宮協議会 実行委 商店街 阪急西宮ガーデンズ 兵庫県立芸術文化センター
後援 西宮市 協賛 プレミアのみや管理組合



オペラ「ファイガロの結婚」 「グルメ&マルシェウィーク」

6月25日(日)～7月23日(日)
この期間の8時～18時のみ販売となります。
この期間の10時～18時のみ販売となります。
オペラ「結婚」お食事やドリンクもあわせて楽しめます。



佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ2017
「フィガロの結婚」前夜祭 関連イベント
2017年7月8日(土)
フィガロの結婚と
モーツァルトを少し勉強しましょう
西宮公会堂 集会室

定員:30名

内容:①フィガロの結婚とモーツァルトを少し体験する

②18世紀・フィガロやスザンナ、モーツァルトが生きたヨーロッパを
少し体験する。

～つとがわ・おれこれ～

福島県飯館村、宮城県石巻市、そして沖縄県へと行ったり来たりしています。それが、公用だったり私用だったりしますが、仕事は思いっ限り、そして足りないながら力の限りの心配りもしているつもりです。幼稚園の近くで借りている畑(所有者は、幼稚園の元保護者・広さ約300坪)の自慢は、“ひまわり”です。ひまわりが大好きです。成長が早くて、子どもたちの背丈をあっという間に追い抜いてしまう“ひまわり”に、嬉しそうに見上げて驚く子どもたちの顔も大好きです。“自慢”のひまわりですが、咲いて枯れて落ちた種のうちのほんの一部が自力で、芽を出して育つのが、幼稚園の畑の“ひまわり”です。その“ひまわり”と同居しているのが、玉ねぎだったり、ジャガイモだったり、イチゴ、さつま芋だったりします。そのものたちの栄養分の分け前(主として、油粕)をちゃっかり奪って、すくすく、すくすく、それはそれは見事に毎年育てて花を咲かせるのです。ただし、そんなことを毎年繰り返しているうちに、“野生化”して(たぶん)大輪一輪咲きだったものがそのままにしておく、茎とすべての葉っぱの間から、枝・わき芽を出してそ

れぞれに花を咲かせ、更にその枝・わき芽からも、枝・わき芽をだして、どんどんいっぱいの花を咲かせてしまう“ひまわり”になります。ただし、そうになると、背丈はそんなに伸びなくなります。で、子どもたちにとって、“天まで届く”ひまわりに育つ為には、枝・わき芽を切り取る必要があります。それがもし、4、5メートルに伸びた時の場合、畑に脚立を運び込んでの作業になります。今年は、庭園作業用の3本脚の脚立を買い込んで作業をしています。例年よりははるかに多いひまわりが育ち、更に例年よりは、はるかに多い4、5メートルの背を伸ばす“ひまわり”が育ち、更に例年よりは、はるかに多く“ひまわり”を咲かせ始めています。

幼稚園や教会の前を流れる川・津門川の植栽帯では畑から移植した“ひまわり”が伸び、近くの人たちがそれぞれ水やりなどの世話をしています。

(S)

パン作りがしたい！！とは思っているものの、なかなか家では作れずにいます。そこで、近くの公民館で開催される講座を見つけ、「パン&シフォンケーキ作り」に申し込みました。いろんな講座があるのですが、パン作りはとても人気だったようで抽選に。見事当選し、5月から2週間に1回通っています。公民館での講座なので、受講されている皆さんはやっぱり私よりもかなり先輩方たちですが、いろんなお話ができてとても楽しいです。生地をこねるところから班ごとにワイワイ言いながら作り、焼き上がりまで。約1年振りにパン生地に触れた！やっぱりパン作りは楽しいなあ〜♪あと残り1回、次はシフォンケーキの応用編だそうです。最近甘いものを食べすぎのような気がしますが、誘惑には勝てません…。

(C)

息子の誕生日にケーキが食べたいそうなのでスポンジケーキを焼きました。あとはその日がきたら厚みをスライスしてクリームと好きな果物を挟むだけで完成ということにしています。私のお菓子の原体験といえば、やはり母が空き缶で焼いていたスポンジケーキの匂いでしょうか。

もうすぐ知事選挙。色々知って考えないといけないのだろうなと思います。

〈戦争は本当に悲しい出来事ですが、日本の独立をしっかりとし、平和な国として、まわりのアジアの国々と共に栄えていくためには、戦わなければならないかったのです。……〉

先の戦争について、このような子ども向けの案内文を発行している神社が日本にはあるそうです。方便ですな。

(Y)

1年ぶりに飯館の子どもたちと再会できました。と言っても新5年生なので、実際には初めまして…なのですが。昨年も5年生の組み木の授業で、福島県を訪ねさせていただきました。小黒三郎さんの組み木の授業のお手伝いで。「知ってる木で何がある？」「さくら…」「まつ…」と、ポツリと。恥ずかしさもあって、そんなに積極的に声を出すわけでもないですが、小黒さんの話には、真っすぐ向かい静かに耳を傾けている子どもたち。木の話の後は、実際にデザインです。これが一番時間もかかり、頭を悩ます作業です。急に思

いつく生き物を描けと言われてもの世界で、戸惑う子どもたちですが、傍に座ってちょっと声をかけると、目こそ合いませんが(笑)ちゃんと会話してくれる子どもたちが、とても可愛くて応援したくなります。そんなこんなで、給食後には一人一人の昇り人形が出来上がり、お披露目もできみんなで完成を喜び合いました。

同じ日本に暮らしているのに、安心して暮らせる場所を奪われてしまった人たちがいること、他人事ではない、みんながそう思いながら本気でそのことを考え続け、そうありたいと願います。繋がり続け、心を寄せ、そして声をかけ続け、一緒に笑いあう事をこれからも大切にしていきたいと思います。

(K)

昨年11月に絵本作家甲斐信枝さんの、甲斐さん曰く「なわばり」嵯峨野あたりでのスケッチの様子、甲斐さんの自然との向き合い方を2年くらいかけてNHKが取材したものがテレビ放映された。85歳86歳の2年間をかけての取材、お元気そうに見えたけれど、やはり取材はこたえた感じだった。ご自分の意思で5時間6時間かけてスケッチするのはいいとしてもそれが横で収録されているのは大変だったことだろう。

1930年生まれだから今年は87歳。植物や小動物の生命への愛おしみは並のものではなく、心がホックリするもの、「絵本はいのち」、そのことを実感するひとときだった。

先月に友人がネットを見ていてそのテレビの時間がDVDになるとの情報を。もちろん買いますよ！お宝特典付きでなかなかの面白い映像作品、早速学生にも鑑賞の時間をでした。とそこに「今日発売に」と甲斐さんからの贈り物。うわあ、すごいお宝以上でした。1年に2度あるかくらいの感じで甲斐さんを紹介した文章とかをお届けしてきました。返事は封書で直筆で万年筆で。「あなたがわたしが元気にしているのかと思ってさりげなく手紙とかをくれているのだなと感じてうれしい」と。そう、元気でいてほしい。今、秋の嵯峨野を訪れようかなとちょっと思っています。

(J)

カット (A・T)

政治・宗教思想研究会／関西神学塾

《今後の講義予定》

6月30日(金) 勝村弘也先生「申命記史書を読む」(50)

※7月はお休み。8月25日、26日は、修養会です。